

C58322 来園50周年記念



2021年は C58322機関車きかんしゃが三島に設置されて50年になります。1971年、旧国鉄、三島駅、とうかいてつどう東海鉄道OB会三島支部、三島市など、多くの方々の協力によって楽寿園に来ました。とりわけはせがわたいぞうはせがわたいぞう長谷川泰三市長（在職1961～1977）にはご尽力じんりょくをいただきました。

機関車おとずは訪れる子どもたちに大きな夢と力いっぱいおとずの元気を与えています。

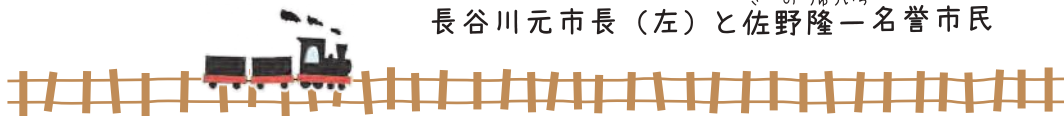


三島駅前をトレーラーで運ばれるC58



子どもの科学教育に力を尽くした
長谷川元市長（左）と佐野隆一名誉市民さのりゅういち

C58322経歴



1942年7月

きしゃせいぞうかぶしがいしゃ汽車製造株式会社大阪工場きしゃせいぞうかぶしがいしゃで製造され富山区に配置されました。

ななおせん七尾線（石川県）、おばません小浜線（福井県—京都府）、ふたまたせん二俣線（静岡県）などで活躍しました。

1969年2月
1971年1月

三島市長が国鉄に無償貸与むしょうたいよを依頼しました。

1971年3月

二俣線ディーゼル化のため二俣機関区で引退しました。

5月

二俣機関区から楽寿園内に移動・移設されました。

10月

現在の場所に設置されました。



C58形機関車について

1938年から1947年まで431両製造されました。機関車の重さは58.7トン、炭水車（たんすいしゃテンダー）の重さは41トンです。炭水車には6トンの石炭（せきたん）と17トンの水が積めます。機関車の長さは18.3メートル、動輪（どうりん車輪）の直径は1メートル52センチです。880馬力のパワーがあり、最高速度は時速85キロメートルです。

運転室（うんてんしつ）は広く左右にドアがあります。安全性だけでなく煙や寒さからも乗務員を守ってくれました。使いやすい大きさなので客車・貨車用（きやくしゃ・かしゃ）に北海道、九州など全国で使われ活躍しました。



交通都市三島



昔から三島は交通網の大事な地点です。東西には江戸と京都を結ぶ東海道、南へは伊豆に向かう下田街道が通っています。江戸時代には、大名などが泊まる世古本陣（せこほんじん）・樋口本陣（ひぐちほんじん）があり、旅行者や人々の生活を支える商店（かじや）・鍛冶屋（そめものや）などがあって宿場町として栄えました。

現在の三島も交通の要（かなめ）となっており、道路は国道1号、伊豆縦貫道（いずじゅうかんどう）が走っています。鉄道では、東海道新幹線、東海道線、伊豆箱根鉄道の駅があります。伊豆箱根鉄道は三島駅から修善寺駅へ連絡をしています。鉄道の重要な施設として、JR東海新幹線三島車両所、JR東海旅客鉄道総合研修センターがあります。



機関車を守る3本柱一屋根・しゅどうりん 主動輪・きゅうすいとう 給水塔



1 大きな屋根

大きな屋根が機関車を雨や風から守っています。

機関車がきれいなのは大きな屋根のおかげです。大きな屋根はさびびてペンキがはげていますが、これからもずっと機関車を守り続けます。



2 解体された機関車の主動輪

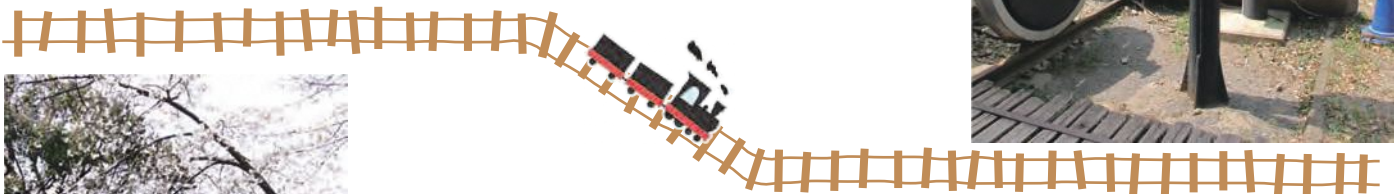
解体されたC58294はC58322より1年前に製造された先輩です。機関車の命である大事な主動輪が同じレール上に並んでいます。先輩機関車が見守っています。



3 給水塔

じょうき

蒸気機関車は石炭で水をわかして蒸気をつくります。そしてこの蒸気をエネルギーにして走るため、たくさん水を使います。のどが乾いたら機関車がかわいそうなので国鉄は給水塔をつけてくれました。給水塔は今では貴重な鉄道資料です。国鉄の機関車への愛情が伝わってきます。



2008.3



2008.9 (静岡新聞)



はちばな
楽寿園の駅前口広場に展示された鉢花でデザインした花絵です。雨上がりでしょうか。青空が出て、きれいな虹が出ています。子どもたちが大好きな新幹線が未来に向かって走っています。1本1本の鉢植えのお花が美しく咲いています。(2019年2月)



東部鉢花展覧会が寄贈しました。



元絵は三島市立東幼稚園が描きました。

C58322展



2019年3月5日から17日まで、三島市郷土資料館においてC58322展が開催されました。たくさんのお客様が来館しました。



C58322展ののぼり旗です。三島市のホームページで紹介されました。



静岡新聞(2019.3.10)



園児が楽しく見学です。



西島三島市教育長が来館しました。



JR三島駅長も訪問しました。

「ありがとう！ SLおにいさん」



小学5年生から高校卒業までの8年間、C58機関車の手入れをした功績で、豊岡三島市長からひとすきなつき一杉夏来さんへ感謝状が贈られました。(2019年3月)

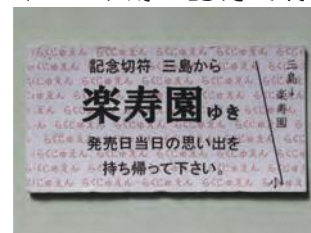


C58機関車の前で団体やグループが記念写真を撮っています。人々は何年後、何十年後に再び訪れます。高齢の方は懐かしそうに当時を思い出していました。C58機関車には時代と人の歩みがあります。



広報みしまの表紙を飾りました。

イベント用の記念切符



せいそうほうし SL清掃奉仕



機関車を国鉄から譲り受ける条件として、きちんと管理することがあります。東海鉄道OB会三島支部が春・秋の年2回清掃を行っています。



清掃作業 (2019.9)

JR三島駅長と
東海鉄道OB会三島支部

科学がいっぱいの蒸気機関車



蒸気機関車の技術が新幹線へ、そして宇宙へと発展しています。鉄のかたまりの機関車は子どもたちに人気があります。機関車には人間のあたたかみを感じさせる魅力があるようです。子どもたちは機関車からなかなか離れようとしません。息を吐いて、吸って、腕を回しながら走る機関車の姿はまるで人間のようです。機関車は子どもたちに探求心とやすらぎを与えてくれます。

機関車は外側から機械がよく見えます。丸い大きく長いボイラーのなかで石炭を燃やし水を沸かして蒸気をつくります。蒸気のエネ^{たんきゅうしん}ルギーでピストンを動かして機関車を走らせるのです。そして、蒸気^{きてき}の力で発電し、蒸気で汽笛を鳴らします。蒸気は暖房にも使います。



えんしつ
煙室…熱い蒸気と煙が通ります。



きかん
機関…機械装置が見えます。



運転室…機関士と助手が働きます。

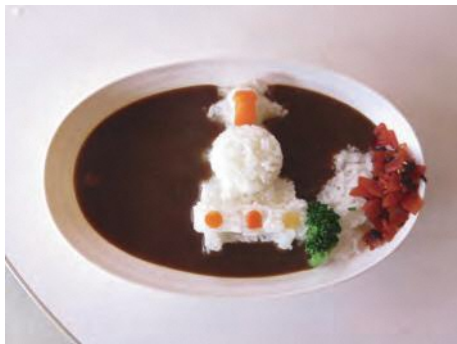
スマイル鉄道2019フェスタ



SLC58研究所のボランティアがSLの魅力を説明しました。煙突から煙が出ています。園内のお休^{やす}み^{どころ}処「ピクニック」では期間限定のトレインカレーがメニューに登場し、子どもたちに大人気でした。



SLC58研究所 (2019.2)



トレインカレー (ピクニック)



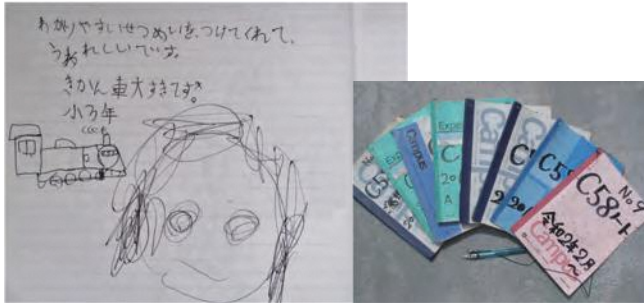
かわづくら
園内の河津桜

C58ノートとSL整備日誌

せいびにっし



「わかりやすいせつめいをつけてくれて、うれしいです。きかん車大好きです。小3年」と『C58ノート』に書いてありました。『SL整備日誌』はボランティアの楽寿園C58応援隊が、さび落としや油の注入、草取りなどの作業内容を書いて楽寿園事務所に報告します。



運転室に置いてあり自由に書くことができます。



作業の予定と実施報告を記入します。

は 煙を吐くC58322



三島市内はもちろん、近隣市町や県外から、さらに、アメリカ、オーストラリア、フランス、ドイツ、ロシア、スペイン、中国、韓国、インドネシア、ベトナムなどの国々からも見学者が来ます。



2020.8



2020.9

静岡県内のC58形機関車



てんりゅうはまなこてつどう てんりゅうふたまたえき
浜松市天竜区の天竜浜名湖鉄道 天竜二俣駅前の機関車公園にC58389は展示・保存されています。
掛川市中央公園のC5849は、ボランティアによってきれいに整備されています。

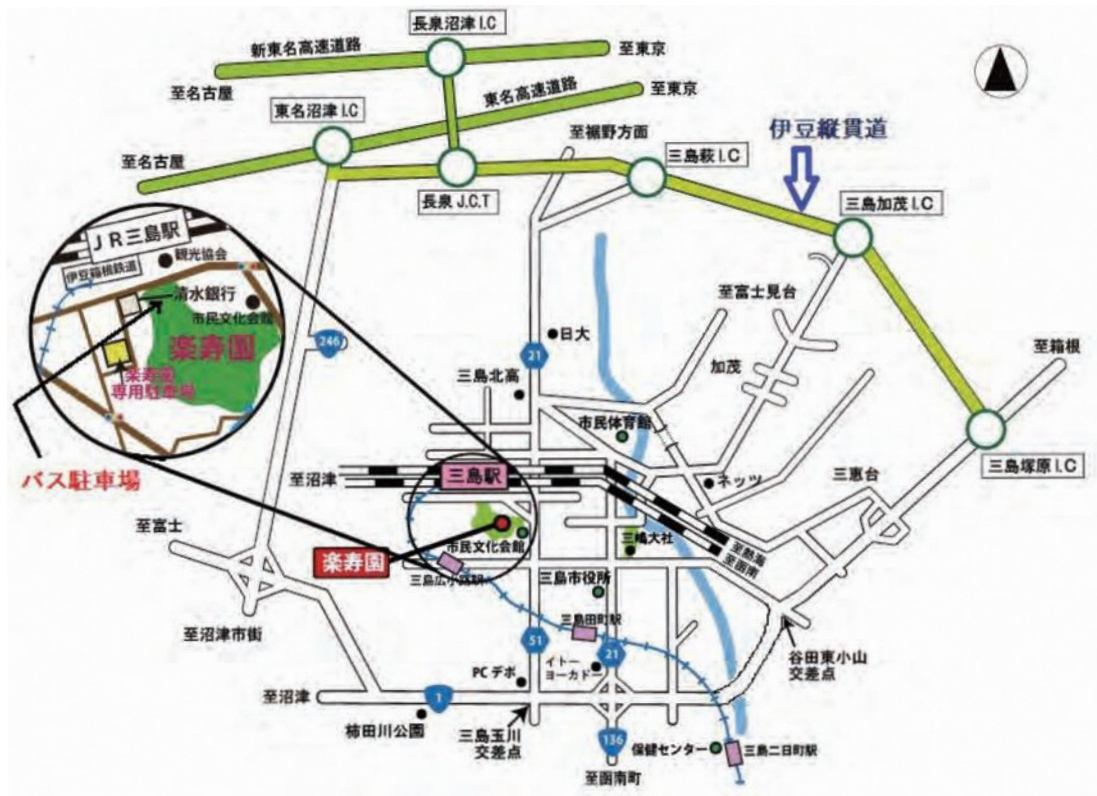


C58389



C5849

楽寿園へのアクセス



楽寿園内の機関車がある場所



発行日：令和3年9月1日
 印刷補助：三島市教育委員会
 編集・発行：楽寿園C58応援隊
 問合せ先：三島市教育委員会文化財課
 (055-983-2672)

協力：東海鉄道OB会三島支部 三島市立公園楽寿園
 三島市教育委員会文化財課 三島市郷土資料館
 楽寿園お休み処「Picnic (ピクニック)」
 多田真也太氏

